

ここ草津もずいぶんマンションが増えました。国勢調査によると、世帯が暮らす住居の半分、なんと3人に一人がマンション・アパート暮らしです。学生さんやファミリー層だけでなく、最近では「老後はマンションで」と戸建て住宅から移り住む人も少なくないとか。どうしてマンションなのか？これからどうなるのか？今回は「コミュニティ」の視点も気になしながら、「イマドキのマンション事情」について聞いてみます。

FEATURE

“ファミリー”から“大人”のマンションへ

ファミリーハイツ草津町内会長



夕方5時。童謡「たき火」の鐘の音色が、草津駅の西口一帯に鳴り響きます。そろそろ夕飯時、公園や空き地で遊ぶ子どもたちも家に帰る時間です。ここはファミリーハイツ草津。3棟からなるこのマンションには約440世帯、1150人が暮らします。

マンションで町内会をつくる

築約20年。子どもたちも巣立ち始めました。「もちろん高齢化は進んでいます。駅にも近くて

生活には便利だから、若い家族の出入りも頻繁にありますよ。つい5〜6年前までは40代が最も多い層でした。今、60歳以上は約170人。それでも高齢化のペースは他のマンションに比べて遅いほうかな」と さん。

さんが入居したのは6年前。他市の戸建て住宅から家族で移り住みました。車は運転し

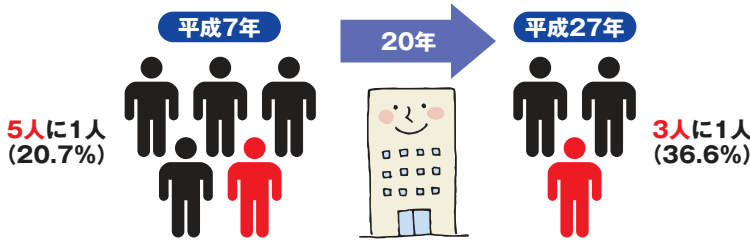
ますが、これから高齢になるにつれ不便なことが増えることを考えると、徒歩で日常の用をほぼ済ませることができるところでの暮らしを気に入っています。

今、 さんはマンション単独で組織する町内会の会長です。「当初は地元の町内会に入っていました。その後、マンション単独で活動していこうということで、マンション単独の町内会ができたと聞いています。今から17年前のことです。町内会として学区の自治連合会にも入り、地域の行事や神社の神事にも連携しながら参加しています。町内会

ノート note ①

増える！草津のマンション ～草津市のマンション状況～

草津のマンションに暮らす人の割合 (住宅に住む一般世帯人員のうち共同住宅に住む人の割合)

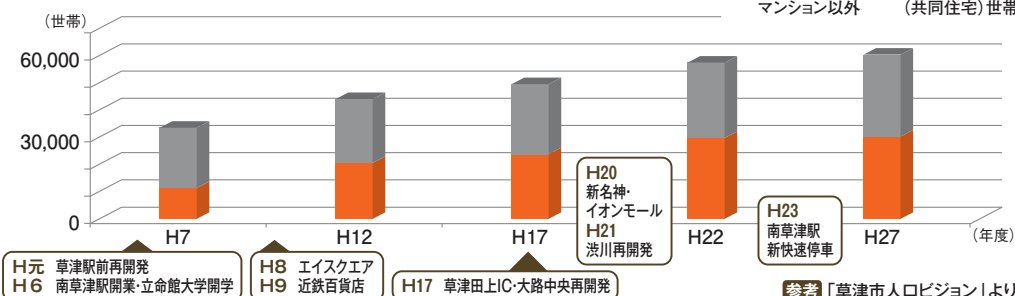


国勢調査のデータより発行者が独自にまとめ、イメージ化したものです。

マンションは「共同住宅」の数字を用いました。このため、実際のマンション数や住民数とは必ずしも一致しませんのでご了承ください。

出展 総務省統計局 政府統計の総合窓口e-Stat 「国勢調査」より <https://www.e-stat.go.jp/>

草津の世帯と住宅 (住宅に住む一般世帯とそこの共同住宅の数)



だけでなく、老人会や子ども会もマンション単独であります。子どもは減りましたね。ピーク時は200人近くいた小学生も今は50人です。」

大人が楽しむクリスマス

それでもファミリーハイソ草津町内会は元気です。夏まつりやクリスマス会、もちつき大会など住民同士が顔を合わせ行事を活発に行いながら、今日も「コミュニティを育てています。」

子どもは減り、大人は徐々に歳を重ねつつあるマンション。これまでの町内会行事には、子どもや高齢者を対象にした行事はいろいろありますが、マンションの中心世代である40〜60代を対象にした行事が少ないことが気がかりでした。そこで昨年、「大人のためのクリスマス会」を町内会で開いてみました。思いきって「今回は大人だけね」と子どもの参加を止めにしたのです。

「はたして、住民は受け入れてくれるのか」。そんな不安も吹き飛ばし、なんと70名の参加がありました。集会所で食事とお酒、そして生バンドの演奏です。バンド演奏は好評で、集まった年代層に合わせ、また逢う日まで

♪異邦人♪秋桜といった昭和歌謡やオールディーズのナンバーで「大人の時間」を楽しんだのでした。

サイクルシェア

分譲時、若いファミリー世帯が中心だったこのマンションでは、どの家庭でも通学や幼児保育園の送り迎えなどに使う自転車があつて、駐輪場が足りないくらいでした。子どもが大きくなると、自転車を使うことも極端に減ります。「自転車はもう使わないけど、なければいけないやっぱり不便。」そんな家庭が増えてきたのです。



そこで、マンションの管理組合で自転車を購入し、住民なら自由に乗りこなせることができるサイクルシェアを始めたのが約10年前。今では土日だと15台の自転車がすべて出払っていることもあるとか。「利用は5時間までというルールです。チャイム乗りの感覚ですね。私なんかは自転車で乗るのが好きだからよく利用しますよ。図書館に行ったり、お米やお酒などの買物があるときなんかは重宝しています。」

変えること、変えないこと

自転車の貸出場所でもある管理事務所。たくさんのモニターがある部屋を抜けるとパソコンが置かれた2つの机が並んでいます。町内会と管理組合の事務を行うためのものです。

「特に分譲マンションは、建物が年を経るごとに、住民も歳を重ねていきます。町内会であれ、管理組合であれ、住民の今の暮らしぶりにいかに合わせていくか、どのように合意形成していくか、が難しいところなんです。そのためにも町内会と管理組合は常に協力しあいながら良好な関係を保つよう気を配っています。町内会の中でも『参加者が少ない行

事を減らしては」という議論もあります。でも、住民同士の親睦を楽しみにしているという声を聞くと、なかなかね。少数の意見も大切にしていきたいですし。」

町内会長になって2年。さんの目下の悩みは次の役員の担い手だとか。

「やっぱり仕事をしている世代は忙しく、なかなか時間が取れなかつたり関心が薄かつたりで難しいところですね。積極的に町内会活動に関わる人が限定的なのはどこも同じかもしれません。高齢化に向かう今こそ、顔を合わせコミュニティが大切な意味をもつてくるんだと、思います。」



イメージ▲

同じ建物を多くの住民で共有するマンション。防災・防犯・防災であれ、大規模修繕や建て替えであれ、住民同士の様々な合意形成をする場面がでてきます。互いの利害を調整し、円滑に合意形成していくためにも、日ごろのコミュニケーションがいかにかに大切な土壌となるのか、そんなことを感じました。

そうそう、冒頭の鐘はメロディを演奏できるように複数の鐘が組み合わさった「カリヨン」というもの。ファミリーハイソのカリヨンが奏でる曲はなんと24曲、季節に合わせて変わるそうです。このカリヨンのように、住民一人ひとりがつながるマンション、素敵ですね。